

在京飯田高校同窓会・総会報告「講演

市制80周年を迎えた  
飯田市のいま

（天皇皇后両陛下下行幸啓、リニア中央新幹線  
牧野光朗 （高32回）

飯田市は今年、市制施行80周年を迎えました。10月8日にその記念式典を行い、90周年、100周年に向けて、思いを新たにしたいと思っています。

90周年はリニア中央新幹線の開通の年になる予定です。これが全通しますと、東京・名古屋・大阪の三大都市圏が約1時間で結ばれ、リニアを軸にひとつの大都市として周辺地域を巻き込みながら機能していく、いわゆる「メガリージョン」が形成されることとなります。その巨大都市圏の真ん中に位置する飯田は、品川まで約45分、名古屋まで約25分という、まさに夢のような時間距離の短縮が実現するわけです。

今までの東海道新幹線、東北新幹線、北陸新幹線の例を見ますと、東京から大体1時間圏内の駅には、定期で通勤・通学する人が2千人〜3千人いるというデータがあります。10年後には、飯田に住みながら東京や名古屋

そこからもう一度、飯田を美しいまちに再生しようという試みが始まったわけです。区画整理が行われ、飯田の市中を南北に貫く形で、幅員約30mの防火帯が整備されました。その真ん中に復興のシンボルとしてりんご並木を作るう、と地元の飯田東中学校の生徒が提案し、40本のりんごの木を植えたというのは有名な話で、教科書にも紹介されています。その後、さまざまな困難を乗り越えて、今日まで60年以上継続しています。

新たなにぎわいの創出

今、飯田では約30団体が参加して「りんご並木まちづくりネットワーク」を作り、地域活性化事業を展開しています。

たとえば、りんご並木の東側の地区では、「飯田まちづくりカンパニー」というタウン・マネジメント・オーガニゼーション（まちづくり会社）が中心になって再開発を行っており、様々な活動拠点が整備されています。

また、ソフト面では「ゆるキャラ天国」南信州獅子舞フェスティバル」「飯田丘のまちフェスティバル」などの新しいイベントが開催され、りんご並木の通りが、いわゆる「ねやねや」になります。中でも、丘のまちフェスティバルは、平成19年に「人形劇のまち飯田」に因んでフィギュ



●まきの・みつお  
飯田市出身。早稲田大学政治経済学部卒業後、日本開発銀行（現日本政策投資銀行）入行。同フランクフルト首席駐在員、大分事務局長を経て、2004年飯田市長就任、4期目。南信州広域連合長、全国市長会副会長（地方創生担当）。

に通勤や通学ができる時代がやってくるのが予想されます。今、飯田におきましては、そういう将来を見据えた地域づくりが行われています。

飯田のまちづくりの原点  
大火からりんご並木へ

今年「飯田の大火（昭和22年4月20日）」から、ちょうど70年という節目でもありました。飯田市美術館保存の当時のカラー動画をご覧ください。今の扇町から火の手が上がり、南から風が吹いていたために、火の粉が火の玉のようになって次々に中心市街地に飛んでいったと言われています。懸命の消火活動にも関わらず、当時の市街地の約8割、約60万平方米が焼け野原になりました。あの阪神淡路大震災の神戸市長田区の焼失面積を上回り、いまだに戦後最悪と言われています。

アをテーマにしたフリーマーケットを開催したところ、インターネットのツイッターを介して「丘フェス」という呼び名で広まり、サブカルチャーの祭典としても注目されるようになりました。



全国、海外から注目される「痛公用車」

もう一つご紹介すると、「イタ車」イタリア製の車ではなく、外装にアニメのキャラクターなどが描かれた「痛い」車一が、駅前の中央通りにズラッと並ぶということが起こっています。これに乗じて、飯田にあるタクシィ会社6社が1台ずつ「痛タク」を作ったところ、観光客に人気で、痛タクで観光をしたいという依頼が増えているそうです。

実は公用車も「痛く」なっています。特製のラッピングが市に寄贈されたのです。この「痛公用車」は、中国でも紹介され、岐阜の「痛車フェスティバル」、名古屋のモーターショーなどのイベントにひっぱりだこです。

飯田東中学校の生徒が歌を披露

平成28年11月17日、飯田に天皇皇后両陛下がお見えになりました。実は、皇太子時代の昭和44年に一度、三六災害

後の復興の視察にいらしているので、2回目ということになります。

両陛下は、最初に阿智村の満蒙開拓平和記念館をご訪問されました。この記念館は、長野県と南信州広域連合の補助、さらに心ある方々のご寄付によって平成25年に建立された、日本で唯一の満州移民史を扱う民間施設です。この展示資料をご覧になり、実際に満州に行かれた方々から直接、苦勞話などをお聴きになりました。これが両陛下の一番の目的だったと思っております。

その後、三六災害時に水害を起こしたポトルネックのひとつであつた天竜峡を訪問されました。48年前にいらした時には天竜峡ホテルに宿泊されましたが、今回は龍峡亭でお昼をお召し上がりになりました。私はここでお迎えをさせていただき、阿智村の熊谷秀樹村長、飯田市議会の木



生徒らと語り合う皇皇后両陛下  
(写真提供 長野県)

下克志議長、阿智村議会の高坂美和子議長と共に会食をさせていただいたわけです。

「会食中はどういうお話をされたのですか？」とよく訊かれるのですが、基本的には献立についてです。

達が収穫作業をする様子をご覧になりました。その際、ちよつとしたサプライズがありました。りんご並木に隣接するエコハウスで、お茶を飲んでいただいた際に、市議会議長の木下さんが「実はりんご並木の歌があるんです。中学生がとても素晴らしい歌をうたってくれますよ」という話をしたところ、美智子様が、「ぜひお聞きしたい」とおっしゃられ、その場にいた中学生が急遽「りんご並木 Forever」を披露したのです。両陛下は「すぐに美しい声で歌えるんですね」と喜んでくださいました。

## 未来につなぐ「ビルド・バック・ベター」

現在、りんご並木には、この行幸啓の記念碑が2基並んでいます。1基は「天皇后両陛下下行幸啓記念碑」の文字を刻んだ一般的なものですが、もう1基は、全国で初めて作られたもので、同年12月の天皇誕生日の会見のお言葉が刻まれています。後者については、宮内庁にお伺いしたところ、前例がないとのこと、少し時間がかかったのですが、ご許可をいただくことができました。

特に注目していただきたいのは、後半の「昭和20年代という戦後間もないその時期に、災害復興を機に、前より更に良いものを作るといふ、近年で言う『ビルド・バック・ベター』が既に実行されていたことを知りました」

それから、満蒙開拓平和記念館やりんご並木の話もさせていただきました。同席した方々によると、7割方は私が喋っていたとのことですが、実は会話をリードされていたのは皇后陛下です。私はご質問にお答えしたに過ぎません。

一番印象に残っているのは、会食が終わりに近づいてきた頃、美智子様が高坂さんの方をお向きになり、どうしてもこれだけは言っておかなくては、という様子で「高坂さんは、療育のことを大変熱心にやられたんですね」とおっしゃったことです。これには驚きました。確かに、高坂さんは、飯田の療育センター（現・こども発達センターひまわり）の立ち上げに尽力された方ですが、まさか美智子様がそのことをご存知だとは思わなかったからです。高坂さんが「今は、飯田市の事業として療育センターをやってもらっています」と答えると、今度は私の方を向かれ、「本当にがんばっていたんですね」と仰ってくださいました。このように大変お氣遣いのある皇陛下でいらつしやるのが会食の最中にも感じられました。

昼食後、両陛下は飯田の市中に入られます。その際の「お出迎え」については、後に皇宮警察の方が「こんなに大歓迎で、しかも整然としたお出迎えは久方振り」とおっしゃったぐらい、素晴らしいものでした。

両陛下は、りんご並木を訪れられ、飯田東中学校の生徒

というお言葉です。行幸啓の限られた時間で、両陛下が、飯田の大火からの再生を目指したまちづくりの原点をしっかりと受け止めてくださったことが伝わってまいります。

飯田は、間もなくリニア中央新幹線と三遠南信自動車道の開通・全通という大きな転機を迎えます。

また、今年の4月には、信州大学航空宇宙システム研究センターとの連携により「信州大学航空機システム共同研究講座」が始まりました。将来的には、信州大学南信州キャンパスを設置することを目指しており、「飯田下伊那の地に高等教育機関を」という宮澤芳重先生の悲願がいよいよ達成されようとしています。飯田が新たな「知の拠点」となり飯田下伊那地域の産業を担う人材、世界に羽ばたく人材を輩出する日も近い、

と私は確信しております。

これからも折に触れ、様々な形で、皆様のおさと飯田を応援していただければ幸いです。

ご清聴ありがとうございました。



映像を駆使して講演する牧野市長